

チリのルマコ市で RC を紹介したときのこと

チリの首都サンチアゴのプエンテアルト区で RC のリーダーをしているカルメン・ロドリゲスと、彼女のコミュニティーでコウ・カウンセラーをしているエディス・モラーレスとエイダ・ロメーロの 2 人、そして私とで、マプチェ族（チリ南部の先住民族）20 人からなるグループに丸一日かけて RC を紹介するためにチリ南部にあるルマコ市に行きました。

私達が到着した時、会場である文化センターにはマプチェ族の 3 人の婦人と、2 人の女の子がいました。カルメンが 1 階に行くと、私は彼女らに「さあ、隠れて隠れて！」と言いました。みんなで黒いロングカーテンの陰に隠れたとたん、8 歳と 10 歳の女の子達ははしゃぎだしました。私たちは互いにぴったりとくっつき合い、笑い出しました。2 階に来たカルメンとマプチェ族のリーダーであるソフィア・パニケオは、私達が一体どこに行ってしまったのかとびっくりしていました。

私は、ソフィアと私とがどのようにして出会ったのかを参加者に話すことからワークショップを始めました。まず自己紹介をやり、私は RC がどのようにして始まったのかを説明しました。そしてカルメンとエディスは基本的な理論を話しました。一日を通して私達はたくさんミニセッションをしました。2 人の女の子は話に興味を持ち、スリーウェイセッションの相手にエイダや私を選びました。（私はこの集まりには子供を連れてこないようお願いしていたのですが、しきりに参加したがったのでこの 2 人の女の子を招き入れたことは良い結果をもたらしました。）

昼食の間、私たちがここにいることと、コウ・エスクチャ（※）を分かち合っていることに謝辞を述べにルマコの市長さんが来ました。午後から私は RC の目標である人種差別の終結や、環境の保護について説明しました。これらは彼らにとって多くの重要な意味を持っていました。なぜなら、マプチェ族は人種差別の標的にされており、大地を守るために戦っているからです。みんなの熱烈的な参加のもと、私たちはゲームをしました。女の子達 2 人は、彼女らの母親や私達みんなと一緒に遊ぶことが出来て、とても嬉しそうでした。

クロージングの前に、私達は今後のことについて計画を立てました。今回と同じ場所に毎月第三日曜日に集まるということで参加者達の意見がまとまりました。ソフィアがこのグループのリーダーシップをとることを申し出たので、私は有志 2 人に彼女の手助けをしてくれるよう頼みました。女の子達 2 人がすぐに志願しました。彼女達へのアプリケーションをしながら、私は大人の 2 人にもボランティアをお願いしました。

例え現在のチリが強い経済体制を持っていても、ルマコ市には資源が不足しています。参加者の中で自宅に電話がある人はおらず、ごく稀に携帯電話を持っている人がいるぐらい、そして誰もコンピューターを持っていません。（ソフィアはお兄さんの古いコンピューターを使うために市役所に行きます。）更に、彼らと連絡をとっていくことは難しそうだがやりがいのあることなので、私は6月に再び来る計画を立てました（その時季節は冬です、ブルブルブルブル！）。学校の校長職で非常に多忙なカルメンの代わりに、エディスとエイダが月例のサポートグループの手助けをしに南部に来れることを私は願っています。

（※スペイン語でコウ・カウンセリングのこと）

Introducing RC in Lumaco, Chile

プレゼントタイム2007年7月号55 ページより

Yolanda Provoste-Fuentes

翻訳 Hiropy (佐藤 洋)

この文章の著作権はラショナルアイランド社にあります。（翻訳文2008年。原文2007年）。

この翻訳はあくまで草稿として扱ってください。